

## 亜急性硬化性全脳炎サーベイランスの方法に関する検討

研究分担者：岡 明(杏林大学医学部小児科)

### 亜急性硬化性全脳炎 全国サーベイランス調査 (平成23年度施行予定)

目的: 本疾患の新規患者の発生状況の把握  
本疾患の現状での臨床経過  
治療法の選択との関連

サーベイランス2007  
全国で118名の患者を把握  
(年齢4-39歳、平均21歳)

追跡調査

その後の臨床経過  
その間の治療法

新規患者の把握  
全国主要医療機関への調査  
協力いただける患者会を通じた調査  
等

•先行する麻疹感染に関する情報(有無、年齢、予防接種状況、罹患時の免疫状態、その時点の居住地)  
•発症に関する情報(発症時期、診断時年齢)  
•治療に関する情報(これまでの治療、現在の治療)  
•現在の状況

本疾患の我が国における新規発生患者の把握  
本疾患の臨床経過  
治療による効果の評価

本疾患克服に向けた  
基礎的な資料の作成

研究施設 杏林大学医学部、福島県立医科大学小児科、岡山大学大学院発達神経病態学、熊本大学医学部発達小児科、静岡県立こども病院神経科、大阪府立母子保健総合医療センター小児神経科、石巻赤十字病院

## 解 説

1. 我が国は依然として先進国で唯一の麻疹流行国であり、亜急性硬化性全脳炎の発生のリスクを抱えている。
2. 来年度、麻疹の後遺症の一つである本疾患のサーベイランス調査のための方法の検討を行った。
3. この調査により新規発生患者数の把握、現在の患者の臨床経過(自然史)、選択された治療による効果の評価を行う。